

(4)各委員会の意見発表

① 第1委員会

「平和を大切にする心を育むまちづくり」



それでは、第1委員会の意見を発表します。

第1委員会のテーマは、「平和を大切にする心を育むまちづくり」です。このテーマについて考えるため、私たちは、7月22日に愛知・名古屋戦争に関する資料館の施設見学を行いました。

そこで、私たちは、千人針を知りました。千人の女性に縫ってもらって、日露戦争のときなどに戦地に持って行かれました。千人針を縫った女性の思いと、それをもらった兵士の思いは、すごくつらいと思いました。

また、焼夷弾は、一つの塊に38本の爆弾が入っていて、すごいスピードで落ちてきて怖いです。よい対策もなく、火がどんどん広がっていき、たくさんの人が亡くなりました。カモフラージュのために、建物を黒く塗ったものの、250キロ爆弾などの威力が強く、名古屋城の石垣などが焼けて、全体的に名古屋が最も早く焼けてしまいました。今はとても豊かで明るい名古屋も約70年前は、とても悲しい状態であり、とても苦しい毎日が続いていたとわかり、もう二度と戦争を起こしてはいけないと思いました。

その後、私たちは、施設見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「平和を大切にする心を育むまち」にするためには何をすればいいか考えました。

それでは、私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

ぼくは、資料館しりょうかんに行って焼夷弾しょういだんを見ました。そのとき、こんな怖いこわものは地球からなくさないといけないと思います。

そのためには、家族や学校で平和とは何か、平和の大切さを話し合い、より多くの人が戦争の怖さこわを知り、もう戦争をしないと思えば、爆弾ばくだんや核兵器かく、そして平和を大切に大切にする心を育む地球ができると思います。

○子ども議員

わたしは、平和とは、みんなが安心して安全に暮らせることだと思います。まちが平和になるためには、わたしは戦争をしないことだと思います。約70年前、名古屋でも空襲くうしゅうがありました。戦争では、いろいろな兵器が使われました。中でも私が一番恐ろしいと思ったのが焼夷弾しょういだんです。焼夷弾は主に建物などを焼き払うために落とされました。いい対策たいさくもなく、火がどんどん広がっていき、たくさんの方が亡くなりました。

わたしはこのような兵器が開発されなくてもいいまちや世の中にしたいです。

○子ども議員

^{わたし}私は、「平和を大切に作る心を育むまち」にするためには、戦争をなくしたほうがいいと思いました。なぜかという、戦争をなくしたら、いつまでも平和でいられるし、戦争のことで誰も悲しまなくっていいからです。

それと戦争を体験した人たちも、戦争がなくなることで安心が持てるからです。だから、^{わたし}私は戦争をなくしたらいいと思いました。

○子ども議員

^{わたし}私たちの住んでいる名古屋のまちは、今、平和だと思います。でも、約70年前までは戦争が行われていて、日本でもたくさんの武器が使われていました。

^{わたし}私は250キロ^{ばくだん}爆弾が一番心に残りました。250キロ^{ばくだん}爆弾はとても大きく、主に鉄などの丈夫なものを燃やすために使われていました。今日日本で使われていたら、とても^{こわ}怖いし、昔使われていたことを想像すると、とても^{おそ}恐ろしいです。だから、戦争中のことを知ることも「平和を大切に作る心を育むまち」にするために必要だと思いました。

○子ども議員

今回、戦争で実際に使用された焼夷弾や戦時中の資料などを見学し、戦争の悲惨さや怖さを学びました。戦争は人だけでなく、物やまちもなくしてしまうと思いました。

これから将来、もっと戦争の知らない人、戦争を経験したことのない人たちがふえていきます。名古屋だけでなく、世界中の人が平和で毎日笑顔で過ごせるために、僕たちができることは、一人一人がもっと戦争のことを知り、学び、二度と戦争はしないという気持ちを持ち続けることが大切だと思いました。

○子ども議員

きょう8月6日は広島で平和記念式典が開かれています。皆さんは、この近くにある戦争に関する資料館に行かれたことはありますか。戦争に関する資料館は、戦争の恐ろしさを自分の目で見て感じ、平和の大切さについて深く考えることができる場所です。僕は戦争当時、目立つ建物が空襲から逃れるために黒く塗られていたことを知り、驚きました。それでも僕が知っている名古屋の中心地は焼け野原となり、国宝だった名古屋城も炎上してしまいました。

今僕たちが暮らしている美しいまち、名古屋は、戦後みんなの努力によってつくられたのです。これからもみんなで平和を守ることが、美しく暮らしやすい名古屋を守ることにほかならないと考えました。

○子ども議員

僕は、戦争に関する資料館で、焼夷弾について知りました。戦争のとき、名古屋にも38本を束ねた集束焼夷弾が落とされ、まちの中心地を焼き尽くしました。家が一瞬で燃えるというのは、すごい恐ろしいことです。

そのような経験をしないように、平和なまちづくりについて考えました。僕は外国の人との交流の機会を子どものころからふやすことが大事だと思いました。なぜなら、交流するとお互いのよさがわかり、仲間だと感じられるからです。ぜひ皆さんも外国の人と交流できる場をふやしてください。

○子ども議員

平和を大切にすまちはするには、まずみんなに戦争の恐ろしさを知ってもらうことが大切だと思います。

僕が思う平和とは、みんなが安心して暮らせる世の中だと思います。

みんなが安心して暮らせるにはどうしたらよいのかを考えることがよいと思います。

○子ども議員

^{わたし}私は、戦争はとても^{おそ}恐ろしいものだと感じたので、二度と戦争は起こしてはいけないと思いました。

何を見て感じたのかというと、250キロ^{ばくだん}爆弾と^{しょういだん}焼夷弾を見て感じました。なぜかというと、大切なもの、人などいるのに250キロ^{ばくだん}爆弾や^{しょういだん}焼夷弾が落ちてきたら、^{うば}奪われてしまうからです。なので、戦争は二度と起こしてはいけないと思いました。

○子ども議員

^{わたし}私は、今回「平和を大切にすることを育おまちづくり」について、たくさんのことを学んできました。

約70年前、今のとても^{ゆた}豊かで明るい名古屋も、生活が苦しい日々を送っていたことがわかり、とても悲しい気持ちになりました。この先、10年、20年と同じ生活が続くとは^{かぎ}限りません。戦争を経験した方々が^{わたし}私たちにたくさんのことを教えてくれています。一人でも多くの人に戦争がどれほど大変でどれほどつらかったかを知ってもらうことが大切だと思います。

○子ども議員

^{わたし}私は、「平和を大切にすることを育むまち」にするためには、みんなが^{やさ}優しい心を持つことが大切です。先日無差別殺人がありました。そして障^{しょうがい}害者という、毎日不自由な生活を送っている方々が亡^なくなりました。

このようなことが二度と起きないようにするためにも、一人一人の心の持ち方を考え直さなければいけません。そして、平和にするためにも、温かく^{やさ}優しい心を持つことが必要だと思いました。

○子ども議員

^{わたし}私は、愛知・名古屋 戦争に関する資料館^{しりょう}へ行き、戦争中に家の近くの公園にアメリカ戦闘機^{せんとう} B29 が落ちたことを知りました。この話を祖父^{そ ふ}にしたところ、祖父は当時小学2年生で、B29 が墜落^{つらく}したと聞き、見に行ったそうです。でも、とても残酷^{ざんこく}な状態^{じょうたい}で子どもながらに見ていられなかったそうです。身近な祖父^{そ ふ}から聞いた話なので、とても心に響^{ひび}きました。

小学校でも戦争体験のある児童の皆^{みな}さんのおじいさんやおばあさんを募集^{ぼしゅう}し、当時の話を聞く会をつくったりすることで、平和を大切にすることをより高まると思います。

わたし

私たち第1委員会は、このようなことが、名古屋を「平和を大切に
する心を育むまち」にするために必要だと考えました。

これで、第1委員会の発表を終わります。

こ い で そ う む か ん き ょ う

と う べ ん

■ 小出総務環境委員長の答弁

第1委員会の皆さん、大変すばらしい思いの
こもった意見発表をしていただき、ありがとう
ございました。

第1委員会では、「平和を大切にする心を育
むまちづくり」をテーマとして、愛知・名古屋
戦争に関する資料館を見学し、平和を大切にす
る心を育むまちにするためにどうすればよい
のかということについて、委員の皆さんに考え
ていただきました。

施設見学をした愛知・名古屋 戦争に関する
資料館では、県民の方々から寄せられた戦争に関する実物の資料が
数多く展示されていて、当時の人々がどのような状況に置かれてい
て、どのような苦勞をして、どんな思いで生活をしていたのかを学
びました。また、焼夷弾による空襲がどのようなものであったのか
について、映像を通じ体験し、戦争の悲惨さや残酷さを感じたので
はないでしょうか。

施設見学の後、委員会の話し合いを進めるに当たっては、委員長
と副委員長に大勢の方が立候補され、皆さんの積極性に大変感心を
いたしました。

子ども市会で初めて会った12人の皆さんが、一つの目的のために
意見を出し合い、議論を行っている姿を見て、とても頼もしく思
いましたし、委員長の高橋さんと副委員長の猪飼さんを中心として、
すばらしい意見発表にまとめていただき、とても感動をいたしました。

また、子ども委員長は、副議長にも立候補して、真っ赤な衣装で
真っ赤に燃えて所信表明をして、見事当選され、第1委員会の担当
としてとてもうれしく思います。



きょうの発表の中で、委員の皆さんからは、平和を大切にする心を育むための具体的な提案をしていただきました。今私たちが住んでいる日本は、資料館で学んだような戦争もなく、ふだんの生活の中で平和とは何かということについて深く考える機会はありませんと思います。しかしながら、平和というものは何もしなくても手に入る当たり前のものではなく、多くの人たちの知恵と努力によって得られた宝物であるということを忘れてはいけないと思います。

今回発表をしていただいた皆さんを含めて、これからの未来を担っていく若い方たちが、なぜ戦争を起こしてしまったのか、平和とは何なのか、そして平和な社会を実現するためにはどうすればいいのかということについて深く考え、そして話し合い、発信していくことが必要だというふうに思います。

私たち大人も、皆さんが発表された意見や提案をしっかりと受けとめて、名古屋市が「平和を大切にする心を育むまち」となるよう、より一層勉強をして努力をしていきたいと考えています。

また、この子ども市会への参加を通じて、委員の皆さんが意見することのすばらしさ、そして決断をし、行動に移すことの大切さを感じ取っていただけたら大変うれしいです。

最後になりましたが、この子ども市会を通じて、若い皆さんのパワーと限りない可能性を感じることができ、改めて皆さんの未来のために、我々もさらに努力しなければいけないと痛感をいたしました。

岡本副委員長、くれまつ副委員長、そしてさまざまなサポートをしていただきました星野先生を代表いたしまして、第1委員会の皆さんに心から感謝を申し上げ、私の答弁とさせていただきます。3日間本当にありがとうございました。

